

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.10

令和4年11月25日

『生き生き学校2』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



秋の学校生活

「秋の夜は釣瓶(つるべ)落とし」とはよく言ったもので、昼間の短さを日ごと感じる季節となりました。すでに暦の上では立冬を迎えましたが、温暖な南足柄市では、今まさに「食欲の秋」「勉学の秋」を感じているところです。秋を感じる学校生活を紹介します。

<1年生>

11月18日(金)3時間め、松尾学級で生活科の研究授業がありました。1年生にとっては、初めての研究授業…学校中の先生たちが1年2組の教室に集まりました。それでも子どもたちは動じることなく、いつも通りの元気で学習しました。

その日の課題は、「どんぐりゴマを回るようにするためにはどうしたらよいか」でした。子どもたちは、これまでの自分の経験や試し活動によって、いろいろなアイデアを伝え合いました。

「(どんぐりの軸を回す時)両手が熱くなるまでこすって、シュッとやるといい」

「シュッとやったあと、弓矢のようにするといい」

「シュッとやるとき、力を強くするといい」



回す工夫一つにも、子どもらしい光る言葉があふれていました。1年生でも、このように友達の話をしっかり受け止め、つなげて発言できる姿が見られます。

<2年生>

11月14日(月)5時間め、岩切学級で生活科の公開授業がありました。これは市の教育研究会によるもので、コロナ禍のため3年ぶりの開催でした。他校の先生方が参観に来られました。

この学習は、グループでおもちゃをつくり、1年生を招待して遊ばせてあげようということがねらいです。その日の課題は「どうしたら、楽しく遊ぶことができるか」でした。子どもたちは、互いの遊びを体験し、改善点についてアドバイスし合いました。

翌日の生活科の学習では、早速、友達から受け取ったアドバイスをもとに、おもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりしました。「自分たちが楽しむ」ことから、「自分も友達も楽しむ」という思考が生まれています。



<3年生>

11月21日(月)、諏訪の原公園へ校外学習に出かけました。思い起こせば3年前、この子どもたちは入学式の翌日から前代未聞の2か月間の学校休業…3年生にとっては、入学以来初めての校外学習でした。朝からあいにくの雨模様でしたが、子どもたちの願いが伝わったのか、昼前からは秋らしい青空に…。

現地では、グループで協力し合いオリエンテーリングに取り組みました。オリエンテーリングの問題には社会や理科、英語の問題が盛りだくさん。全て先生たちの手作りです。その後は、何往復もローラー滑り台をするなど思う存分楽しみました。



<4年生>

11月18日(金)5時間め、荒野学級で学級活動の研究授業がありました。本校では「共に学び合う子の育成」を研究主題として、特別活動を中心に子どもたちの自治的活動の力を育てています。

この日の学級会テーマは「男女が仲良くなるためのクラス遊びを考えよう」でした。「休み時間などに男女で遊ぶことが少なくなってきた」という1学期の反省からこのテーマが生まれました。

『かくれおに』は、男子が好きなおにごっこ、女子が好きなかくれんぼの両方ができる」

『どろケイ』は、捕まった友達を助けるなどの協力ができる」

「爆弾ゲームをやるとき、男女が交互に座るといい」等々、子どもたちによる進行で、テーマに沿った話し合いが行われました。クラスをよりよくするために自分たちはどのように行動すれば良いか、一人ひとりが真剣に考え、自分たちの力で課題解決しています。

<5年生>

5年生は、現在、算数の時間にクラスを半分に分け、少人数による授業を行っています。5年生の算数は、課題解決する際に抽象的な概念が求められ、内容も多岐に及ぶため、小学校6年間の中では大きな関門と捉えています。

少人数指導により、一人ひとりのつまずきに教師がいち早く気づき、解決の手だてを講じることをねらっています。

人数が少ないことにより、自ずと一人ひとりの発言の機会がふえ、また子どもの方から「ここがわからない」という声も聞かれるようになり、手ごたえを感じています。

<6年生>

「What can we do to protect animals and environment?」

11月14日(月)の3・4時間め、6年生の外国語の授業に招かれました。この日の課題は「Food Chain ポスターセッションをしよう」でした。学級担任・外国語指導者・ALT・校長の4人が審査員となり、それぞれのグループに賞を与えるという設定です。

子どもたちの英語のスピーチも去ることながら、自分たちの環境への思いがより伝わるようにと、目を引くポスターを作ったり、ボディランゲージを取り入れたり、表現方法を様々に工夫していました。

十数年後、子どもたちは世界の中で生きていく必要があります。グローバル化が進み、コミュニケーションもグローバルにすべき時代となります。

外国語の学習を通して、積極的に自分の意見を主張する場面をつくっています。



<特別支援学級>

11月11日(金)、くすのき学級が「自立活動」の研究授業を行いました。

「自立活動」とは、特別支援学級において、特別に設けられた指導領域です。自立活動は各教科や学校生活を支える役割を担っています。

この時間の課題は、「ストロートンボをつくらせてみよう」です。ストロートンボをつくるという作業に必要な動作を習得するとともに、コミュニケーションの基礎的能力を育成することをねらっています。

「〇〇くん、いっしょに勝負しよう」
「負けないぞー」

飛ばして遊ぶ活動にどっぷりと浸り、友達同士の会話が自然と弾みました。

ストロートンボという魅力的な教材によって子どもたちの笑顔が輝いています。



明日11月26日(土)はPTA主催の岡小フェスティバル&クリーンクリーン作戦です。ご協力をお願いします。

わたしのひとりごと…

あるコラムを読んでいて、こんな会話に出会いました。
「〇〇くんは、何をしているときに一番好き?」
「んー、何もしてないとき」
「それはどうして?」
「だって、のんびり何もしない日は、お母さんがのーんびりだから!」

私はこの子の気持ちがとてもよくわかります。もう十数年も前の話になりますが、自分が子育て中に体験したことと同じだからです。
教師という仕事は特に学期末になると、超多忙です。仕事は職場だけでは終わらず、家に持ち帰ることも多くなります。我が子は、そういう時期になると決まって熱を出すのでした。何度か繰り返すうちに、これは「お母さん、もっと私を見て」と、子どもの心が反応しているのだらうと受け止めるようになりました。
そこで、なるべく仕事は早め早めに終わらせるように心がけ、子どもとの時間を大切にしようと思えました。
体力がついてくると、そのうち熱は出なくなりました。しかし、子どもが進路を選ぶ時期になって、こんな言葉を告げられました。
「私は、お母さんのように忙しい仕事はしない。のんびりとしたお母さんになりたい。」
子どもにとって、お母さんがのんびりとしていることは、子どもにとって嬉しいこと、必要なことなのですね。そして、「お母さん、がんばりすぎないで」というメッセージもあったのだらうな、今さらながら気づくことです。

このコラムの締め括りには、こんなことが書かれてありました。
親御さんの心と体と時間が「子どものため」だけで埋まってしまわないように。疲れたり、辛かったりするときに自分自身を大切に、優しいメッセージです。